

2023.3.1



NPOフォーラム だより No.104

NPO法人安房文化遺産フォーラム（共同代表：愛沢伸雄、池田恵美子）

〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1 TEL&FAX：0470-22-8271

Eメール awabunka@awa.or.jp 公式サイト <https://awa-ecom.jp/bunka-isan/>

会員・寄付募集中！ 年会費＝正会員 A:10,000 円（総会議決権あり）・準会員 B:2,000 円・法人 10,000 円
（ゆうちょ銀行口座：00260-1-97307 名義 NPO法人安房文化遺産フォーラム）

房州とイタリアを愛した画家

寺崎武男・生誕 140 年

会場：千葉県南総文化ホール 入場無料・資料代 500 円

*シンポジウム 4月1日(土) 14～16 時

基調講演「日伊交流史における寺崎武男」

石井元章（大阪芸術大学教授）

調査報告「手帳と書簡から見える寺崎武男の世界」

愛沢伸雄（NPO 法人安房文化遺産フォーラム代表）

*作品資料展

3月25日(土)～4月5日(水)

10～16 時（最終日 15 時/月曜休館）



令和元年のGW、旧富崎小学校を舞台に「海とアートの学校まるごと美術館」を開催し、館山ゆかりの3人の画家（青木繁・倉田白羊・寺崎武男）を紹介しました。この模様は YouTube <チャンネル：安房文化遺産フォーラム>から見るすることができます。

なかでも寺崎武男は、安房神社や布良崎神社・下立松原神社などに多くの房総開拓神話の作品を奉納し、安房高校でも美術講師を務めています。明治期にイタリア留学でルネッサンス期の壁画をはじめ様々な絵画技法を研究し、国際的に活躍したにもかかわらず、あまり知られていない「幻の画家」です。

親交のあった三島由紀夫は、「無理解と孤立には少しも煩はされずに、「悠々と、晴朗に、芸術家たるの道を闊歩していた。あくまで走らず、跳ばず、悠揚たる散歩の歩度で。氏こそ、真の意味で、芸術家の幸福を味わった人ではなかろうか」と回顧展にメッセージを寄せています。

私たちは遺族から、多数の作品とともに数百枚にのぼる書簡や数十冊の手帳やスケッチ帳等の寄贈を受けており、資料類の調査分析に取り組んできました。家族や友人との密な交流から、国際的に各界で活躍する人びととの人脈や、芸術への情熱などが明らかになりつつあります。館山市立博物館で生誕 120 年企画展「寺崎武男の世界」を開催してから 20 年を経た本年、改めて安房ゆかりの先人について顕彰し、地域の誇りとして次世代へ継承していきたいと願っています。

⇒ 詳細は 4 面参照



※知恵袋講座は、3月・4月を休止とします。5月を楽しみにお待ちください。

房州とイタリアを愛した画家 寺崎武男・生誕 140 年

寺崎武男は、1883（明治 16）年 3 月 30 日に東京赤坂で生まれ、東京美術学校西洋画科を卒業後、農商務省実業講習生としてイタリアに留学しました。以降、3 度 20 年にわたり訪欧し、フレスコやテンペラ・エッチング・壁画・版画など様々な技法を研究し、日本に紹介した先駆者です。

イタリア政府主催・大倉喜七郎後援の「羅馬日本美術展」では横山大観を中心に、寺崎は通訳・コーディネーターを務めています。観音を描いたテンペラ作品『幻想』は、ヴェニス・ビエンナーレ国際展で日本人初の入賞を果たし、イタリア政府の買上となりました。生涯をかけて東西文化の融合を目指した寺崎は、その功績から芸術名誉賞はじめ、イタリア国王や政府から勲章などを多数授与されました。

留学中に会った「天正遣欧使節」の行跡に感銘を受け、16 世紀に日本から海を渡り、ローマ法皇に謁見して外交を果たしながらも、禁教から鎖国へ向かう時代に翻弄された少年たちの姿を後世に伝えようと、生涯にわたりをこのテーマを描き続けました。

一方、日本国内では創作版画協会やテンペラ画会、壁画協会などを設立したほか、明治神宮の聖徳記念絵画館に『軍人勅諭下賜ノ図』が収められ、東京大学病院や日本医師会館などにも壁画を描いています。

大正期より法隆寺の壁画研究を続けており、早くから防災設備のないことを危惧する論文を書いています。彼の懸念どおり後に火災が起き、これを機に文化財保護法が制定されました。金堂壁画が焼失しましたが、寺崎は法隆寺輪堂に壁画を描いています。

館山には、美校の師でありイタリア留学の先輩である彫刻家・長沼守敬（ながぬまもりよし）が先に移住していました。彼を慕って訪れるうちに、別荘を館山の西ノ浜に建て、やがて定住しました。

1949（昭和 24）年に安房高校の美術講師となり、情熱あふれる指導を授けました。法隆寺の壁画が完成した際には、修学旅行の生徒たちが見学に立寄ったといいますが、残念ながら現在は非公開です。

ルネサンスの壁画を研究した寺崎の作品は、画面の対角線の 7 倍離れた距離から見ると焦点が合い、奥行きや立体感を感じるといいます。

今回注目すべき作品は、終戦の翌 1946（昭和 21）年に描かれた『平和来たる春の女神』という大きな屏風画で、舞台は布良の女神山と阿由戸ノ浜かと推察されます。もう一つは『ヴェニスの女』といい、1926（大正 15）年の第 1 回聖徳太子奉讃美術展覧会出品のフレスコ壁画です。ほかにもヴェネツィアの風景画や宗教画なども多く、見応えがあります。生誕 140 年を記念して「寺崎武男の世界」を広く紹介しますので、この機会にぜひご来場ください。

<お手伝いスタッフ募集>

- ・ 作品展期間中の受付（半日交代）
- ・ 調査データの Word 入力



「ベニス」



「ヴェニスの女」



「平和来る春の女神」



「祖神を偲ぶ天富命」



「ベニスにて公式謁見図」（天正遣欧使節）

MIKES TERAWAKI